

### 平和の香り高い学園の永続を

飯田高校の正門を入った左側の木立の中に、「希望」と名付けられたひとつの銅像がある。腕を組んで中空を見つめる男子の立像である。大東亜戦争(太平洋戦争)中、挙国一致の臨戦体制のもと、飯田中学の生徒も献身報国の熱意を胸に、悠々学徒動員に赴いた。三菱重工業(株)名古屋航空機製作所道德工場で航空機の生産に勤んでいた昭和19年12月7日午後1時37分、突如大地震に見舞われて、工場は一瞬のうちに倒壊し、その粉塵のなかで5人の飯田中学校生徒の尊い命が失われてしまった。吉川光夫、本郷哲夫、牧島恒、佐々木得一、高田厚敏の5名である。昭和35年(1960)、悲痛・痛恨を乗り越え前進の像をという気運のなかで、この「希望」像が建立された。銘文に曰く「……独立六十周年を迎えるに当り力強く祈念する。信と愛と敬に満たされた平和の香り高い学園の永続を」。



「希望」像 倉沢興世・作